



MESSAGE NOTES

“Be Church” 教会で在れ

コリント人への手紙 第一 12:12-27

ロイド フラハティ

KBF での使命は、単に教会に出席することではなく、神の家族に属するという事です。私たちが集い、そこから教会の外に出るとき、私たちはキリストの光を運んでいるのです。私たちは単に教会に通う人々の集まりではなく、私たち自身が教会そのものなのです。

1. 私たちが異なっているからこそその強さ

コリント人への手紙 第一 12 章 14~18 節

14 実際、からだはただ一つの部分からではなく、多くの部分から成っています。15 たとえ足が「私は手ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。16 たとえ耳が「私は目ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。

17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が耳であったら、どこでおいを嗅ぐのでしょうか。18 しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。

もしあなたが、自分は他の人と違うと感じているなら、それは良いことなのです！私たちはそれぞれ特有の才能が与えられ、そのユニークなひとりひとりが一緒になって一つの体を構成しているのです。肉体のどの部分にも重要な役割があるように、教会が神様の意図された通りに機能するためには、教会のすべてのメンバーが必要なのです。私たちの多様性は強みであり、弱みではありません。

2. 別々にではなくお互いに頼り合う

コリント人への手紙 第一 12 章 21~22 節

21 目が手に向かって「あなたはいらぬ」と言うことはできないし、頭が足に向かって「あなたがたはいらぬ」と言うこともできません。22 それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。

聖書は、「一匹狼」のクリスチャンなど存在しないと教えています。私たちは、共にいることでより強くなれ、ひとりひとりの貢献がとても大切であることを認識し、お互いに頼り合い、愛をもって支え合うように意図されて創られているのです。

3. 頭としてのキリスト

コリント人への手紙 第一 12 章 27 節

あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。

イエス様は教会の頭であり、私たちを導き、方向を示してください。私たちは、①イエス様の導きに従うこと、②イエス様の権威に委ねること、③目的と使命において私たちが一致するように神様に働いていただくことに焦点を置くべきです。「教会である」ということは、イエスの主権の下で調和して生きるということであり、他の誰もイエスの代わりになってはならないのです。イエス様が私たちの主です。

まとめ

教会は、イエス様を主であり救い主とした人々でできています。私たちがひとつになって、イエス様を頭とするキリストの体ができているのです。私たちはそれぞれ異なっていますが、御霊によってひとつに結ばれています。「一匹狼」のクリスチャンはいません。私たちは愛のうちに互いに仕え合い、教会となるように召されているのです。